

子育て支援だより

「子育てワンポイントアドバイス」

第86回 「幼児期に培う国語の力」

こころの相談員 小林 節子

小学校入学を目前に控えているお子さんをお持ちの親御さんは、子どもの学力について、いろいろ不安をお持ちでしょうね。たとえば国語に関してですと、「入学前に、ひらがなやカタカナを書けるようにしておいたほうがいいでしょうか。」といった質問もよく受けます。早期教育を全く否定する気はありませんが、小学校での国語力の基礎となる力は、幼児期では、自分の言いたいことをきちんと言葉で表現できたり、先生の話をしっかり聞いて理解できることだと思います。あさひ園の子どもたちを見ると、先生に絵本や紙芝居を読んでもらうのが本当に好きな様子です。5、6歳になって子どもが文字を読めるようになると、親は絵本の読み聞かせをしなくなる傾向があるようです。でも、人生の中で子どもに本を読んで聞かせられる期間は、ほんの少しです。どうか、お子さんにたくさんの絵本を読んであげてください。ゲームに夢中になっているお子さんでも、お父さんやお母さんと一緒に楽しむ本には別の魅力があるはずですよ。そうして、幼児期から豊かな日本語に親しむことが、子どもの想像力や表現力を育むことになるのです。

文字が書けるようになるには、線や形が自由に描ける器用さや、空間関係を把握する力などが必要です。そうした能力をつけるために、幼児期に手で身体を支えるような全身運動を土台としながら、粘土遊びや折り紙など手を使う活動を十分に行っていくと、結果として、一定の発達段階に達したとき、文字を書く能力が備わるのです。

まだ文字が書けなくてもあせる必要はありません。それより前述したようにお子さんと絵本を読んだり、お子さんの話をゆっくり聞いてあげたり、体を使う遊びを一緒にしたりすることをお勧めします。

※小林相談員は、あさひ園・カンガルーあさひで相談活動を行っています。

1月活動報告



ほがらか

『朗天狗さん』の絵本よみきかせ会

朝日町子育て支援センター（あさひ園にて）

しんちゃん、型にはまらない読み聞かせに、小さなお子さんはもちろん、お母さんも楽しく参加していました！

